

朝ごとの祈り

(日)

主よ、朝に私の声を聞いてください。朝が来る度に、あなたに向かつて身を整え待ち望みます。(4)

これは敵から不当な訴えを受けている詩人が神殿へ行き、神の正しい裁きを求めている祈りの詩です。今日の聖句にあるように、詩人は毎日の朝の時間を特別な時として聖別し、そこに全勢力を注ぎます。何をするよりもまず、神の声に耳を傾け、神に祈りを獻げることを習慣としていました。「あなたに向かつて身を整え」とあるように、詩人は神の御前に出るための備える心を大切にして、朝の祈りに向かうのでした。それほどまでに彼が朝の祈りに心を用いたのは、神に造られた人間として、神との交わりを抜きにして一日を過ごすことなど出来ないという信仰の表れでした。朝の祈りは、その日を生きるための命の源だったのです。神の命は今も、朝ごとに備える心をもつて御前に出る者たちに豊かに注がれます。一日を始めるにあたり、神の御声に聞き、祈ることを大切にしたいものです。